

授業科目名	周産期看護援助論	担当教員	◎下 睦子、久保 幸代、 志村 千鶴子、潮田 千寿子、 夏村 真奈巳、吉田 美和	科目ナンバリング NS384
必修	開講年次：3年前期	単位：2単位	授業形態：演習60時間	

【授業概要】

新しい家族の誕生期にある人々の健康生活を看護するために必要な基礎的知識と技術を習得する。妊娠、分娩、産褥期の女性の体の変化や心理的反応、そして家族のニーズについて理解し、適切な看護介入について学ぶ。周産期各期の経過について理解し、適切な看護師の役割について考察する。また、周産期のハイリスク状態にある女性に対する適切な看護技術を修得する。

【達成目標】

1. 新しい家族の誕生期にある人々の理解と必要な日常生活における基本的なセルフケアを維持促進するよう援助するための知識と技術を修得する。
2. 周産期の各期にある人々への看護について説明できる。
3. 周産期のハイリスク状態にある女性に対する適切な看護技術を修得する。

【履修条件】

「ウィメンズヘルス看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

[01] 妊娠に伴う母体の生理的変化	(下)
[02] 妊娠に伴うマイナートラブル	(下)
[03] 胎児の発育とその生理	(下)
[04] 妊婦の心理・社会的状態	(下)
[05] ハイリスク妊娠	(下)
[06] 妊婦のアセスメントと支援	(下)
[07] 分娩の3要素	(潮田)
[08] 正常な分娩経過とメカニズム	(潮田)
[09] 産婦の心理・社会的状態と分娩時の看護	(潮田)
[10] 分娩時の異常と看護	(潮田)
[11] 産婦・胎児・家族のアセスメントの視点	(潮田)
[12] 産婦・胎児・家族のアセスメント	(潮田)
[13] 妊婦健康診査技術(演習)	(下・久保・潮田・夏村・吉田)
[14] 妊婦体験と産痛緩和支援(演習)	(下・久保・潮田・夏村・吉田)
[15] 産褥期の退行性変化及び異常とその看護	(久保)
[16] 産褥期の進行性変化及び異常とその看護	(久保)
[17] 褥婦とその家族の心理・社会的変化	(下)
[18] 褥婦とその家族の心理・社会的変化の異常とその看護	(下)
[19] 産褥期の異常とその看護	(下)
[20] 退院後の生活に向けた支援とアセスメントの視点	(下)
[21] 褥婦のアセスメント(演習)	(下・志村・潮田・夏村・吉田)
[22] 褥婦の観察技術及び母乳育児支援(演習)	(下・志村・潮田・夏村・吉田)
[23] 新生児の生理	(潮田)
[24] 出生直後の新生児の看護	(潮田)
[25] 出生24時間以降の新生児の看護	(潮田)
[26] ハイリスク新生児の看護	(潮田)
[27] 新生児の感染症予防と事故防止	(潮田)
[28] 新生児のアセスメントの視点	(潮田)
[29] 新生児のアセスメント(演習)	(潮田・久保・下・夏村・吉田)
[30] 新生児のフィジカルアセスメントと日常生活支援(演習)	(潮田・久保・下・夏村・吉田)

【教科書】

森恵美他著(2021). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論, 医学書院.

【参考書】

1. 有森尚子他(2022) 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版
2. 板倉敦夫他(2022) 新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社
3. 大平光子他(2022) 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 南江堂
4. 井上裕美他(2018) 病気がみえる vol.10 産科 メディックメディア

【評価方法・評価基準】

テスト(60%)、演習レポート(30%)、講義・演習への参加態度(10%)、評価基準の詳細については別途示す。

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題の学習を行うこと。(1時間)

事後学習：講義資料をもとに学習内容の復習、課題の記述を行うこと。(1時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポートは記述内容を評価し、返却する。試験については、解答を示しフィードバックを行う。

【備考】

ウィメンズヘルス看護学概論、ウィメンズヘルス看護学実習と関連が深い。特に、ウィメンズヘルス看護学実習に向け、妊産褥婦・新生児とその家族について理解を深め、アセスメント能力と看護実践能力つながる知識・技術習得の学習を主体的に行うこと。